

令和2年12月18日

# 二宮町教育委員会議録

( 定例会・臨時会 )

二宮町教育委員会

1 開会時間 9時30分

2 閉会時間 11時33分

3 教育長名 森 英夫

4 署名委員 渡辺 優子

5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
○	教育委員 教育長職務代理者	山内 みどり
○	教育委員	岡野 敏彦
○	教育委員	渡辺 優子
○	教育委員	野谷 悦

6 出席者氏名

教育部長	黒石 徳子
教育総務課長	下條 博史
生涯学習課長	小笠原 純二
教育総務課長代理	田中 明夫
教育総務課指導班長	境野 朋美
教育総務課教育総務班長	岩崎 稔史
教育総務課教育総務班主任主事	渡邊 一充

7 傍聴者 2名

8 調整者 教育総務課教育総務班主任主事 渡邊 一充

## 1 開会宣言

(教育長) 令和2年度12月定例教育委員会議を開催します。

## 2 署名委員の氏名

渡辺委員を指名する。

## 3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 12月政策会議及び第4回議会定例会報告を資料に基づいて行う

(各課長) 各課の事務報告・事業予定について資料に基づいて説明する。

○(岡野委員) コミュニティスクールの代表者会議があったそうですが、どんな事が話題になったのでしょうか。

○(教育総務課長) 会長さんが替わった学校もあるので自己紹介から始まり、コミュニティスクールと地域の協働本部、協働活動の住み分けの説明があり、その後各学校から今年度の取組みや今後の予定等の報告をして情報共有を図りました。地域とコミュニティスクールの協働活動の住み分けが浸透していなかったり、コミュニティスクール自体が地域に浸透していなかったりするため、ポスターを刷ってPRしてくださっている等、そういった意見がありました。生涯学習課の持つ地域学校協働活動と、教育総務課の持つ学校運営協議会がもっと連携して学校と地域が有機的に作用するような取り組みをしなければいけない、というような話の流れだったと思います。

○(渡辺委員) 前回の会議の中で、図書館2階の自習室が間隔を置いて使えるようになったという事でした。それから1ヶ月経ちましたが利用者は増えているかというのと、自習室の使用状況と時間制限等についてお聞きします。

○(生涯学習課長) 自習室は10名程入れるようになっており、埋まって7割程度です。全席埋まることは今のところなさそうです。再開を待たれていた方は多いようで、自宅で調べもの等がしにくい方にご利用頂いている様な状況です。時間については図書館再開当初は30分程度を目安に、とじていましたが、自習室は30分では中々厳しいのでコロナの事を考慮しつつ最低限の利用時間をお願いしています。

○(野谷委員) 議会報告の中、教育部長の答弁概要で、3ヶ月に渡り休業となったが授業時間数は概ね確保できており、本年度の履修事項は全ての学校で完了できる見込であるとあります。教育部長の立場としてそのように言わざるを得ないのは理解できるのですが、現実には、6週間不足しました。その歪みが、特に学習についていき難い子供たちにあらわれているという事を意見として申し上げたいと思います。もう一点は図書館班のイベントについて。12月15日の新図書館20周年記念の本のお楽しみ袋は面白い取り組みと思うのですが、子供の反応はいかがだったのでしょうか。

○（生涯学習課長） 始めたばかりでまだ感想を伺えていないので、ぜひこれから反応を見たいと思います。

○（山内委員） 福袋みたいでワクワクする良いアイデアだと思います。小・中・高生向けということですが、もっと小さい子ども向けとか大人向けとか、広げていったらどうかというのと、どれくらいの子どもが利用しているのかお聞きしたいです。

○（生涯学習課長） 初めての試みということで、図書館に来て貰いたいターゲットとして小・中・高生向けとしました。ご意見いただきましたので本を選ぶのが大変かとは思いますが、今回は大人向き等も前向きに検討したいと思います。

#### 4 付議事項

##### （1）議案第15号 二宮町教育委員会点検及び評価報告書（案）について

（教育総務課長）二宮町教育委員会点検及び評価報告書（案）について資料に基づいて説明

○（岡野委員） これまでの意見をかなり盛込んでいただきありがとうございます。年度が変わって新しくスタートする時に、今年重点ポイント、最終到達点はどんな姿か、スタート地点で思い描かれているとしないのでは雲泥の違いが出ると思うので、そういった点でも、このように活動をまとめていくというのは大事だと思います。今年特に力を入れたことのひとつに情報発信がありました。学校ホームページは長年の念願だったこともあり個人的にも嬉しくて、潜在的なニーズはあると思います。昨夜の時点で5校合わせて175,000件を超えているので、それなりのアクセス実績は残せていると思いますし、率直にすごいことだと思います。こういう活動はただのアクセス件数じゃないという方もいますが、17万アクセスという数字で確認すると、やっけて良かったと思うし、それだけ潜在ニーズがあることを実感できますので、定期的に進捗をウォッチングしていくことも大事と思いました。各項目の評価も自信がある部分はAをつければいいし、Bの所は次にどうすればいいかを考えて具体的にアクションすればいいと思います。できた事とできなかった事を精査、分けられて書き込んであることが大事だと思います。そういった意味で今年度の点検評価に尽力いただいて感謝しています。外部の評価委員さんからもご理解いただいている部分もありますし、足りない部分のご指摘もいただいているのでそれを次年度にしっかりつなげていければいいと思います。

○（野谷委員） ホームページの充実やコロナ禍のイベントの問題等、元年度の点検評価だという記述が明確になっていない部分があります。ホームページの充実は令和2年度のことかなとか、イベントは4月に入ってからが難しかったとか、その辺りを区別した表現が必要です。元年度の評価なのに2年度の評価も入っているという若干の矛盾は感じました。もう一点は教職員の働き方改革、評価Bはそれでいいと思うのですが、記述の問題として、教員の個人の意識にしか触れられていないというのと、制度的なもの、教員の受け持つ仕事量や人数、様々あるように思います。そういう意味で外部評価委員さんの「教職員の働き方

に対する改革の推進の項目で、一部で改善の兆しが見えます。しかしまだまだ多くの課題があり改善に向けた努力をお願いします。」という指摘になるほど、と思いました。

○（山内委員） 長年教育委員をやっていて疑問に思っているのですが、前年度の評価をこの時期ではなく、6月くらいにできないのでしょうか。評価報告は必要な事ですし内容の考え方についても皆で考えて決めてきたのですが、評価の時期については疑問があります。今年コロナ前と with コロナの時代で分かれてしまって、コロナ前の事を今評価する事がどうなのかなと思ってしまいます。もう少し早い時期にできるのであれば混乱しないと思います。あと数字についてですが、どれくらいの参加人数があったかというのが評価の基準になります。例えばピアノマラソンコンサート、参加団体は増えていますが、参加人数は減っているので大きく減ったように見えてしまいます。図書館についても利用者数という部分では評価できないところもあると思います。数字で示すのは分かりやすく評価し易いですが人口の減がある中増えようがない部分もあると思うので、その辺りの精査をして頂くことより良くなると思います。

○（教育部長） 評価、事業の取り組みを進めていくには PDCA サイクルで評価をしていく必要があります。それを改善して次に繋げることが大事で、委員さんの言うとおりにすぐ次の年に反映するのは難しいのですが、翌々年度の予算や取組にも繋げていかなければならないので、できるだけ夏くらいに前年度の評価ができるように、翌年度の予算作業が9月頃から始まりますのでそこに反映できる形で取り組んでいきたいと思います。指標については、成果を客観的に図るには必要だと思います。より事業の成果を掴めるものになる指標を研究していきたいと思います。目で見えて分かるのは数字だと思いますが、全てが成果を数字で表せるとは言えない部分もあるので、そこはうまく言葉で表現して見ていただく方に伝わるよう整理していきたいと思います。

○（山内委員） この年を振り返るとエアコン、タブレット、図書館予約システムの変化が大きいと思います。そういうものを盛込んで、ぱっと見たときに例えばエアコンがついたことが今年のコロナに生かされているように、この成果は大きいよね、と皆で共有できるような見せ方ができるといいと思います。

○（岡野委員） 次の点検評価を、苦しいですが6月前にやってしまうとか、一度歯を食いしばってやるべきかと思います。終わった直後に振り返って次の年度に生かすという事に意味があるので、できれば第1四半期くらいに終わらせられるよう、ぜひ検討をお願いします。数字の件については定量的な評価と定性的な評価の両方が必要だと思います。数字は疑いのようなない事実なので載せる必要はあって、そうではない部分はどこが一番ポイントだったかというのを併記すべきと思うので両側面から検討いただければと思います。教育は数字ではないといいつつも、数字で表せる事もとても大事ですし、最後には次年度の予算に換算されるものだと思います。教育活動はできるだけ定量的、客観的に、主観だけでなくそういうことで評価できる事はできるだけ情報として押さえておいて、その上でどう判断するのかというのを考える事が大事です。定量的な数字と併記すべきだと思います。

○（教育長） 令和元年度、2年度に関してはコロナでできなかった行事等もあり、運営方法も変えなければいけないので前々年度との比較は大変厳しいものがあると思うのですが、これを契機として新たなやり方で点検評価をやっていく事も考えていきたいと思います。

○（渡辺委員） 令和元年度事業分ということなので、点検評価報告書の中で小中一貫教育の計画案を策定したのが令和2年5月、とあるのは令和元年5月が正しいですね。どうしても評価の時期が遅くなると混乱をきたすので、やはり上半期中にできると良いと思います。

○（教育総務課長） 評価の時期は早めなくてはならないと痛感しています。岡野委員のおっしゃる第一四半期中というのは厳しいですが、9月が決算の町議会となります。その時点で前年度やってきた評価もしています。それをもって決算に臨むので、その時一緒に点検評価を行うのは合理的だと思います。ただ、そこでの評価は、前年度のものということになります。9月から10月が予算編成時期なので、令和元年の評価をしたら令和2年に予算設定して令和3年度の予算に反映するということになります。できればそこまでに当該年度の中間評価をしながら予算を作りますので、まずは評価の時期は決算の議会を別途にやるという形でできればと思います。

○（野谷委員） 放課後子ども教室について。地域学校協働活動推進委員会が中心となり、関係者の努力はすばらしく感謝していますが、外部評価委員の意見で「推進委員会を委嘱し教育委員会の努力は何えるが多くの課題がある。」とあります。これはなかなか改善しづらい問題だと思います。その大きな要因のひとつは受け皿です。学校業務が多忙の中でうまく回していけない部分があるのだと思います。二宮町独自ではできないことなので、国等への要望の中で制度改革、学校側の推進委員、時間配当なども考えて欲しいと思います。

○（生涯学習課長） 放課後子ども教室の主催は生涯学習課で、学校にも協力して貰っていますが、事業内容については基本的に学校はノータッチです。学校が終わってから児童が参加するため、学校へ負担を掛ける部分はあると思います。そこで、今までは学校で参加者を取りまとめていたのを、今年度からはマチコミのシステムにより生涯学習課で直接参加者を把握し、学校にその情報を渡す、としたように学校の負担を軽減する取組みを進めていきたいと思っています。

○（教育長） 先日の地域情報交換会でも感じたのですが、放課後子ども教室はもっと気軽に参加できるようなシステムができると思います。一色小学校では学び場という新たな取組をしていただいているので、送迎がなくても子ども達が安全に帰れるような取組を検討し実践していただいていますので、それを参考にして各学校に流布できたらと思います。

○（渡辺委員） 町外では学校に関わる大人がコロナに感染して子どもに広がってしまった事例もあると聞いています。放課後子ども教室の運営に関わる立場としては心配もありましたが、子供たちがのびのび遊ぶ姿を見られて良かったと思っています。やはり保護者の迎えが必要なのが課題、という声はありました。ただ、真っ暗な時間に子供を一人で帰すのは現実には不安がありますので、開催時期を日が長い一学期等にすれば保護者の迎えなしと

いうのも検討の余地があると思います。その辺りを踏まえ、保護者から見て何が申し込む上でのハードルなのか、学童利用の児童とそうでない児童の意識の部分等、幅広く意見を聞いて次年度に繋げていって欲しいと思います。

○（教育長） 開始時刻も大きな課題で、6時間授業の日を減らし5時間授業の日を増やせば、と思うのですが現実的には厳しいところです。

（教育長） 委員に議案第15号について諮る。

委員全員賛成により、議案第15号は承認される。

## （2）議案第16号 二宮町教育委員会公印規定の一部を改正する規定について

（教育総務課長） 二宮町教育委員会公印規定の一部を改正する規定について資料に基づいて説明

意見なし

（教育長） 委員に議案第16号について諮る。

委員全員賛成により、議案第16号は承認される。

## 5 報告・協議事項

（教育総務課長代理） 新しい生活様式の改定について資料に基づいて説明

○（教育総務課長） 地域の感染レベルの説明を詳しくさせていただきます。ステージは都道府県が判断するもので、今神奈川県はステージ2ですので新しい生活様式の行動基準はレベル2にという事になります。ただ、本マニュアルのレベルについては自治体独自で決めて良いという指示が出ています。これについて県として統一見解を出せないか問い合わせたのですが、市町村の教育委員会でするように言われています。二宮町だけで見ればステージは1相当の地域なので、学校としてはレベル1相当の対応になります。しかし県東部で感染者が増えている為、地域感染レベルとしてはステージ2相当になる事を踏まえ、学校としてはレベル2相当の対応を意識するよう指示しています。

○（山内委員） 先日電話で東京の公立中学の先生、埼玉の私立高校の先生をしている方達と話をする機会がありました。埼玉の高校で生徒2人の感染が水曜に発覚して木・金曜と休校措置をし、それ以上感染者が増えなかったため、週明けの月曜から学校再開となりました。学校の消毒作業は保健所ではなく先生と地域の方がやったそうです。東京の中学校の方でも地域の方が日常的に学校の消毒作業を行ってくださっていると言っていました。二宮町では、学校と地域とがどういう風にやっていくかがまだ認知されていないという印象がとても強いです。二宮中学校のホームページでイルミネーションの投稿を見ましたがPTAや地域の方と一緒にやっているという打ち出し方が薄い印象をうけました。中学校側として

は、地域の高齢の方をお願いするのは、万一感染者が出たときの感染リスクが心配とも言っていて、お手伝いを上手にお願いできない状況がずっとあったのかなと思いました。大変なときに新たに地域の方に協力を求めるよりは、できるだけ早く日常的に関わってもらえるようになるといいと思います。

○（教育長） 一色小学校では実際に地域の方に消毒作業に入ってもらった経緯もありますが、ご高齢の方が来られた場合の感染リスクを心配しています。コミュニティスクールの運営方法としては、地域の方がどんどん学校に入って子ども達と関わる時間をたくさん取って頂いて、勉強、遊び、作業、環境整備等、色んな面で力を借りられたらいいなと思っています。また、逆に地域の方のために子ども達に何ができるかという事もあると思うので、本来のコミュニティスクールの姿であればそういった所がもっと活発に、地域と子どもたちとのやり取りがたくさんできればいいなと思っています。それが子ども達の将来に向けて、人間を愛する子どもに育つ事に繋がると思いますし、子ども達がそういった温かいふれあいで育つことで将来、二宮を背負って立つ人間になるような、そんな仕組みになることを理想としています。

○（山内委員） ぜひ今後コミュニティスクールの代表者会議や各校長等にもその辺りの事をお伝えいただきたいと思います。

○（岡野委員） この分厚いマニュアルを読破するのはしんどいと思いますので、何かあったときに即、対応できるようにした方がいいと思うのですが実際どうしていますか。

○（教育総務班長） 「新しい生活様式」のマニュアルは更新の都度、学校へ速やかに周知しています。あわせてこれとは別に、県立高校の感染者発生時のフローチャートが示されていますので、それを基に町立学校のフローチャートも作成しています。これに関しても各学校と情報共有しており、いざという時の具体的な動きは整理されています。

○（岡野委員） いざというときは即座の判断が必要なので A4 裏表くらいの情報量で、すぐ行動できるよう、できるだけシンプルでかつ間違った判断にならないようなマニュアルがあるといいと思います。

○（教育長） 二宮町では子どもたちや学校関係者の陽性者は今のところいないのですが、ここに至るまで疑わしい症状の方、PCR 検査を受けた職員等いましたがすべて陰性でした。陽性が出た場合に備え、先行の学校対応のマニュアルも作成して周知していますし、心のケアやいじめといった人権問題にならないような配慮と、休校の判断等初動についてもフローチャートを整え、すぐに対応できるような体制を整えております。

○（教育総務課長代理） 来年度の始業式入学式の日程と・入学式 2 学期の開始時期について。例年入学式・始業式は例年 4 月 5 日に行っていますが、来年は月曜日に当たる為、新年度が始まってからの準備期間が 2 日間だけという事になります。準備をしっかりと丁寧な対応で子ども達を迎えたいということで、4 月 6 日にずらしたいと先生方から要望が出ています。懸念されるのが幼稚園や高等学校の入学式と日程が重ならないかという点です

が、各園、各校に問い合わせたところ、その心配はなさそうなので、6日に行わせていただきたいと思っています。大磯町でも同様のことを検討しているそうです。また、2学期の開始時期について、例年小学校は9月1日ですが、中学校では近年授業時間数を確保するのが厳しいということで、夏休みを短くして前倒しできないか、という意見が各校からあがっています。今年度、昨年度も8月末から始めている実情があり、次年度は8月30日の月曜日から、小学校は変わらず9月1日という形で調整をしています。ご意見をいただければと思います。

○（野谷委員） 始業式・入学式はカレンダー上やむを得ないのと、子どもを丁寧に迎える必要がありますので6日で賛成です。

○（渡辺委員） 今年は卒業式も遅くて良いと思います。個人的には中学校の2学期開始も9月1日でもいいのではとも思いますが。昨年小学校は8月末からの開始で、子どもと先生のどちらにとってもきつい、という声があったので次年度は9月1日予定と聞いて安心しました。

○（岡野委員） 双方とも希望の日がちでいいと思います。二学期開始日は小中一貫になったら是非、揃えていただければと思います。

○（山内委員） 一時期、各中学で始業日はずれた事があったので、それが避けられたのなら良いです。

○（教育長） 個人的には小中で2学期開始を揃えた方がいいのではと思うのですが、それぞれの中学校にも理由があり、小学校も渡辺委員のお話にあったような保護者・学校側からの声があるということですね。開始日はずれる事に対してどう思うかを身近な人に聞いてみましたが、幼保、小、中、高それぞれにきょうだいがいたとしてもやむを得ないという意見もありました。ただ、預け先が必要な共働きの方にとっては統一した方がいいとは思いますが。入学式、始業式については、式だけでなく、最初の指導のための準備という意味でも時間が必要です。子ども達の学びを保障するために、学習のルールのようなものを子ども達に教え込むのは最初の3日間が肝心です。子どもが勝手に振舞うようになってしまうと軌道修正が利かないので、始めにどんな指導をするかが大事です。令和3年度には新採用の職員を入れる計画がありますが、初任の者だと何も仕事を知らないまま始業式を迎えることになる、そのところの配慮を先生方はしたいと考えているわけです。加えて学びのアドバイザーのほうから、他者の意見を聞いた上で自分の意見を言うというような学びのルールを身に付けるのにも最初の3日間が重要だという事を聞いて、日をずらすというのはそういうことかと腑に落ちました。

○（教育総務課長） 富士フィルムの社会貢献活動で、自社製アルコールクロスを中学校に寄贈してくれる話が具体化してきたのでご報告です。小田原市では数年前から全中学校に配布しており、今年秦野も導入が決まったとの事です。大磯、平塚、二宮は現在交渉中です。実現するとなると、容器を二宮中学校が45、二宮西中学校30、詰替えのクロス、二宮中学校に24,000枚、二宮西中学校に21,000枚頂けます。なぜ交渉中かということ、条件が二つ

提示されており、一点目は生徒自身がアルコールクロスを使用して掃除をするというものです。それは良いのですが、二点目に年度末に月毎のインフルエンザ感染者数を富士フィルムに情報提供して欲しいという事が挙がっています。それに対し養護教諭が生徒の情報を外部に出すことに慎重な考えを持っていました。ここにきて、年度末に学校ごとの総数だけを報告すれば良いと分かったので、改めて学校と相談して、受け取る方向で話を進める事になっています。

－ 次回教育委員会予定 －

(教育総務班長) 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

11時33分 閉会